

# 第5学年 社会科 学習構想案

菊池市立隈府小学校 教諭 渡邊 美和

## 1 単元構想

単元名	これからの食料生産とわたしたち		
単元の目標	<p>(1)食料生産にかかわる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解することができる。</p> <p>(2)生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することができる。</p> <p>(3)主体的に学習課題を追求・解決しようとする態度や、学習したことをもとにこれからの農業などの発展について考えようとする態度を養う。</p>		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>①食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取り組みなどについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産の課題を理解している。</p> <p>②調べたことを図表や文などにまとめ、食の安全・安心の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解している。</p>	<p>①食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取り組みなどに着目して、問いを見出し、食料生産の課題について考え表現している。</p> <p>②食料自給率と食生活の変化を関連付けたり、食料生産について学習してきたことを総合したりして食料生産の課題について考え、学習したことを基に消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの農業や水産業の発展について考え表現している。</p> <p>【ESDの視点から】</p> 	<p>①これからの食料生産について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>②学習したことを基に、これからの農業などの発展について考えようとしている。</p> <p>【ESDの視点から】</p> 
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解し、食料生産と国民生活を関連付けて考えることを通して、調べたことや考えたことを表現しようとする児童。			
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）		本単元で働かせる見方・考え方	
日本の食料生産にはどのような課題があり、これからの食料生産をどのように進めたらよいかを考えよう。		生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産と国民生活を関連付けること。	
指導計画と評価計画（6時間取扱い）			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1	<p>○日本と主な国の食料自給率について調べ、疑問に思うことを話し合い、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の食料の多くは輸入にたよっている。</li> <li>・小麦や大豆のほとんどを輸入している。</li> <li>・1970年に比べ、自給率が約3分の2に減ったのはなぜだろう。</li> <li>・日本の食料生産にはどのような課題があるのだろう。</li> </ul>	<p>【態①】（発言、ノート）</p> <p>○予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっている。</p>

二	3	<p>○食生活の変化と食料品別の輸入量の変化の関係を資料で調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンや肉を食べることが多いので、小麦や畜産物が増えたのではないか。</li> <li>・小麦と畜産物は増えた。</li> <li>・米が減っている。</li> <li>・小麦や肉、乳製品等の輸入が多くなっている。</li> </ul> <p>○食の安全・安心に対する国内の取り組みについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰がつくったかわかると安心だ。</li> <li>・どのように育てられているかを確認できると安全で安心だ。</li> <li>・輸入の食品が多いけれど大丈夫なのか。</li> </ul> <p>○食料を安定して確保し続けるための取り組みを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の農産物や県内の農産物を販売している。</li> <li>・地産地消をしていくことは食料自給率をあげることにつながる。</li> <li>・環境にやさしい取り組みだ。</li> </ul>	<p>★【思判表①】（発言、ノート）</p> <p>○食生活が変化してきたことや、それにともなった食料生産の課題について考え表現している。</p> <p>★【知技①】（ノート）</p> <p>○必要な情報を集め、読み取り、食の安全・安心への取り組みについて理解している。</p> <p>★【知技②】（ノート）</p> <p>○食の安全・安心の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや食料自給率を上げることが大切であることを理解している。</p>
三	2	<p>○P122～123 で紹介されている事例から農業や水産業の新たな取り組みについて調べ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豚のえさにさつまいもを含んだえさを与えて価値を高める工夫をしている。</li> <li>・農薬の少ない安全・安心な米づくりの工夫をしている。</li> </ul> <p>○菊池市の農業（米、水田ごぼう、メロン、しいたけ）の新たな取り組みについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・菊池の豊かな水を生かしておいしいお米を作っている。</li> <li>・メロンを作る土を元気にするための工夫をしている。</li> <li>・連作障害が起きないように、水田にごぼうを作っている。</li> <li>・気候を生かしてシイタケを作っている。</li> </ul>	<p>★【思判表②】（ノート）</p> <p>○食料生産について学習してきたことを総合して、これからの農業などの発展について考え、適切に表現している。</p> <p>【態度②】（発言、ノート）</p> <p>○学習したことをもとに、これからの農業などの発展について考えようとしている。</p>
(総合)	2	<p>○菊池市の農業の新たな取組について、農家さんから聞いたことを発表し合う。</p> <p>○それぞれのグループの発表を聞いて、農家さんたちの取組や思いなどから共通点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おいしいものを届けたいという思いが同じ。</li> <li>・できるだけ農薬を使わないようにして、安全に食べられることを考えている。</li> <li>・お米作りがない季節に作られるものを工夫して作られている。</li> </ul> <p>○菊池市の農業について調べたことを、ポスターにして紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者のことを考えた工夫が伝わるようなポスターにしよう。</li> </ul>	<p>【思判表】</p> <p>○視点を明確にして問題状況における事実と、整理した情報を関連付けたり、多面的に考察したりして理解し、多様な情報の中にある特徴を見付けている。</p> <p>【思判表】</p> <p>○相手や目的、意図に応じ、工夫してまとめている。</p>

## 2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容, 指導事項等)				
<p>本単元は、小学校学習指導要領第5学年の内容(2)ア(ア)「我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解すること。」、ア(ウ)地図帳や地球儀、各種の資料で調べまとめること。」、イ(ア)生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。」を受けて設定している。</p>				
教材・題材の価値				
<p>本教材では、食生活の変化と食料生産の関係を捉える学習で、「食品ロス」の問題を取り上げている。多くの食料を輸入する一方で大量の「食品ロス」が発生していることをつかませ、食生活のあり方を考えさせるきっかけにすることができる。また、食の安全・安心については、検疫所で働く人の話を取り上げる。輸入食品が増える中で、食の安全・安心を確保する重要な取組である。さらに「いかす」段階では、食料生産の新たな取組を紹介する。これからの食料生産について考えるきっかけとなる教材である。</p>				
本単元における系統				
<pre> graph LR     A[5年「暮らしを支える食料生産」] --- B[5年「米づくりのさかんな地域」]     B --- C[5年「水産業のさかんな地域」]     D[5年「これからの食料生産とわたしたち」] --- E[6年「グローバル化する世界と日本の役割」]     E --- F[中学校 公民的分野「私たちと国際社会の諸課題」]     </pre>				
児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)				
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況(27名中)				
調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
教科書や資料を使って課題解決に必要な情報を集めることができる	6	17	2	2
タブレットを使って課題解決に必要な情報を集めることができる	12	10	5	0
課題に対する答えを、自分なりの言葉でまとめることができる	9	13	3	2
課題についての予想や学習計画を立てたり、振り返ったりして学習課題を解決することができる	6	14	7	0
■本単元の学習に関する意識の状況(27名中)				
調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
あなたは、社会の学習が好きですか	8	10	6	3
あなたは、社会を学ぶことは大切だと思いますか	15	9	2	1
あなたは地域の特産品を知っていますか …5名	知っている…22名			知らない
社会科で興味のある分野は何ですか 人 環境7人	農業7人	水産業4人	工業6人	情報3人
■考察				
<p>情報の読み取りについては、約8割の児童ができています。しかし、課題解決に必要な情報を適切に読み取ることについては、約2割の児童が十分にできていない。また、読み取った情報をもとに、自分なりの言葉でまとめることができない児童が、約2割、学習課題を解決することができない児童が約2.5割いる。</p> <p>アンケート結果から、「社会が好き」と答えた児童が18名だった。理由には、「社会のことを知ると役に立つから」「輸出入など知らないことがわかるようになる」などがある。嫌いな9名の理由は、「難しい言葉が出てくる」などがあった。また社会を学ぶ大切さはほとんどの児童が実感しているが、約1割の児童が「自分の仕事に役にたつことかはわからない」などの理由で大切さがわからないと答えている。地域の特産品については、知っている子は「お米」と答える児童が多かったが、お米以外ははっきりとはわからなかったり、全く答えられない児童がいたりした。</p>				

### 3 指導に当たっての留意点

- 児童が問題意識を高め、主体的に学習を進められるように、農業や水産業にはどのような課題があったかなど、これまでの学習を振り返る学習活動を行うようにする。
- 児童が持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解できるように、日常の食生活と関連させて話し合い活動を充実させるようにする。
- 児童が学習したことを基に、自分たちの住む菊池市の食料生産の新たな取り組みを調べる際には、農家さん（お米、メロン、しいたけ、水田ごぼう）から実際に行われている工夫などを聞くようにして、生産者の努力を感じられるようにする。
- 小集団での話し合いを通して、お互いのよさを発見したり、高め合ったりする雰囲気づくりを行う。また、一意見だけでなく、様々な立場、意見があることにも気付かせることで、他者を尊重する態度を育てる。

### 4 ESD との関連

#### (1) 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- ・多様性…日本には食生活の変化、農業や水産業で働く人の減少、食料自給率の低さなどの食料生産にたくさんの課題がある。
- ・責任制…自分たちで食べる分は自分たちの地域で作る地産地消の取組などを通して、食料自給率を上げていくことも大切である。

#### (2) 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

- ・未来を予測して計画を立てる力  
食料自給率が低いことをグラフから読み取り、消費者の1人として食料自給率を上げる取組をいかにやっていくかを計画する。
- ・つながりを尊重する態度  
菊池の農家さんとの関わりを通し、消費者のためにおいしい作物を作るための工夫や努力をされていることを知り、尊重しようとする。
- ・進んで参加する態度  
菊池市の農家さんたちの取り組みを知り、その思いを受け止め、食料生産に対して今、自分ができていることを考える。

#### (3) 本学習を通して育てたい ESD の価値観

- ・世代間の構成  
昔の食生活と今の食生活は違う。
- ・自然環境、生態系の保全を重視する  
日本の食料自給率を上げるためには、地産地消の取り組みなど行っていく。

#### (4) 達成が期待される SDGs

- 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- 1 1 まちづくり
- 1 2 つくる責任 つかう責任
- 1 5 陸の豊かさ